

2020年に新憲法施行 訴え ー 安倍氏は5月3日、改憲推進の民間団体の集会に突然メッセージ。国会答弁では憲法審査会の議論に委ねるとしていたが、同会での議論が進まないことを受け、任期中の本命9条改変を正面に打出した。

＜これまでの政府見解＞

9条2項の戦力不保持 / 自衛のための必要最小限の実力組織＝戦力ではない / 海外派兵・集団的自衛権の行使・武力行使を任務とする国連軍へは参加できない

＜安倍氏の狙い＞

違憲の集団的自衛権を作ったが、存立危機事態でしか発動できないため、使いたい勝手がよくない / 9条3項に＝例えば「ただし、国際平和と日本の独立を確保するために自衛隊を保持することができる」などを追加することで、無条件で海外での武力行使ができるようになる

加計学園18年の新学部設置

安倍氏の友人が理事長の加計学園が国家戦略特区に獣医学部を新設する計画について、内閣府が文部省に「官邸の最高レベルが言っている」との取扱注意文書が明らかになった。文部省側は「できないという選択肢はない」と言われたとしている。(2017.5.18.朝日新聞朝刊) 官房長官は「出どころ不明の怪文書」というが、現実をみればその通りなことが分る。これはもう付度を超えている。

「軍事的安全保障研究に関する声明」 日本学術会議 2017.3.24

(4.13総会で報告)

学術会議は1950年と67年にも軍事研究をめぐる声明を出した。どちらも憲法9条を念頭に、科学が平和に貢献するとする理念を掲げ、「戦争を目的とする研究は行わない」などと、明確な表現で社会にメッセージを送った。

今回の声明は、軍事研究が機密性などの面で学問の健全な発展を阻害するとうい、学問の自由(憲法23条)に関する懸念を前面に打ち出した。防衛省の大学に対する「安全保障技術研究推進制度」も、この観点で「問題が多い」とした。

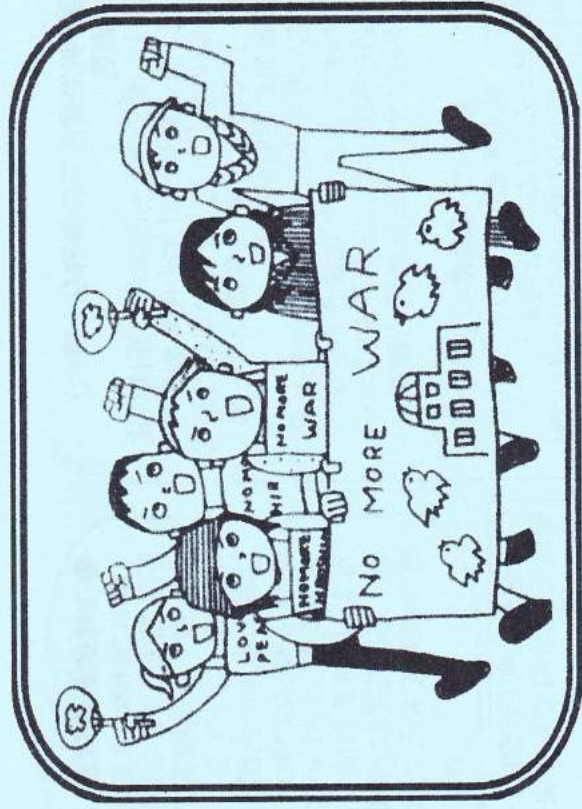
永い歴史を経て到達した「立憲主義」が意味するものは、次のこと

- 「個人」は社会の価値の源泉である (第十三条 など)
- 権力は制限されねばならない (第九十九条 など)

こんな人が総理大臣

やっつけていいのか?

だまされてはいけな
 いかしいことはおか
 しいと言おう



成城・祖師谷地域「九条の会」
 連絡先 道家 根岸
 03-3484-6655
 090-9380-7015

総理大臣をやっている 安倍さんて こんなん

この人はどんな社会にしようとしているのか。
私たちは社会のあり方を、そして、そのためにすべきことを問われている。



●憲法違反しても意に介しない

- 第99条:大臣は憲法を尊重し擁護する義務を負う→を違反
①主権者である国民から広範な声が上がっていないのに憲法を変えようとする
→5/3日本会議系改憲勢力「公開憲法フォーラム」へのヒデオメッセージで 20年に新憲法施行の訴え
②戦争法(平和安全法整備法・国際平和支援法)、特定秘密保護法案、共謀罪の制定
③国会のあからさまな軽視 →*上記を国会で議論する前に、米国両院で「この夏に成立させると演説 *9条改憲の趣旨を国会で問われて、「読売新聞を熟読しろ」と言う

●「核」問題への無理解・無関心

- 核兵器禁止条約に反対
- 核武装は検討の余地あると断言していた人間を防衛大臣に据える
- 原発の積極的輸出
- 原発ゴミの処理という基本課題に目を向けない

●武器輸出条件の抜本緩和

- 平和国家ブランドの毀損
①PKOによる自衛隊派遣先での装備
②国連などへの輸出解禁
③安保協力国との共同開発・生産に關することがらの輸出。ex.戦闘機

●卓越した言換え術・翻し術・騙し術者

- 消費税率増中止など政策大変更 →新しい判断
 - 沖縄オアブレイ墜落 → 不時着
 - 辺野古米軍基地新設 → 移設
 - 武力紛争・戦闘 → 武力衝突
 - 武器輸出 → 防衛装備移転
 - 共謀罪 → テロ等準備罪
- オリンピックのために、とはスポーツの政治利用

あなたのつぶやき

●旧体制(明治憲法下の特殊な一時代)への強い郷愁

- 国際法上も歴史学上も国際的に評価が定着している、先の戦争が日本の侵略戦争であることを認めたくない。「侵略の定義は定まっていない」としたり、戦後70年談話で近隣諸国への謝罪の主語を避ける
→各国からの歴史修正主義との批判も甘受
②偏狭なナショナリズムがグループに波長が合う
③教育勅語を教材とすることを否定しない、土地問題を別にすれば森友学園的教育方針を支持
④天皇退位 → 憲法にいう象徴の意味を深く問うこともなく、皇室典範はノータッチとすること、女性天皇など どんでもないと考える
⑤「あの戦争に関わりがないのちの世代に謝罪を続けさせる宿命を背負わせてはいけない」とこれに対して、ドイツのワイツェッカー元大統領は「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となる」と的確な認識をしている

●強権的政権運営

- 趣味に合わない意見の封じ込め
①煮詰まっていない審議を打ち切り、強行採決
②国権の最高機関である国会をないがしろにし、改憲を主導しようとする
③法の番人の内閣法制局長官をグループ内から選ぶ
④気に入らない放送局には電波停止もありうる、と総務大臣をしてメディアに圧力をかけ萎縮させる。
事実、安倍氏以降日本メディアの発信自由度の極端な低下が国際的に指摘されている
⑤党規約を変えて、総裁3選へ

- 小選挙区制(公認権)・政党助成金(カネ)で党中央に権力が集中
○自党内での多様な意見が出なくなる

●外交についての疑問な姿勢

- 北朝鮮問題 関係国が制裁圧力をかけながら、武力行使でなく外交に解決を求めているのに、米国の軍事オプションに「心つよい」「高く評価する」というのみ
②ロシアによるクリミア併合に積極的な批判をしない

●人間の軽さ

- 世襲議員の特性である政治家であることへの責任と矜持の欠如
- 世襲議員は選挙区を苦勞して開拓したことがない
- 歴代内閣が積み重ねてきた施政への敬意の欠如
- 大学では政治学科専攻なのに、ポツダム宣言を読んだことがない。憲法学泰斗の芦部信喜を知らない、と平然と言う
- 教官・学友は言う → 大学ゼミでの発言を聞いた記憶がない、と

- 極めて凡庸で何の変哲もない人間が首相になってしまふ、今の政治システムの危うさ。
○今の政治村では 全衆議院の ほぼ1/4、自民党では1/3、第3次安倍内閣では1/2が世襲議員
○物言わぬ議員による政治の劣化
○評価・出世のため度々にいそむ官僚